

令和7年度宇治市統一学力調査（学びのステップアップ）の結果について

1 目 的

宇治市における学力の課題を解決するため、子ども一人ひとりの、学校や家庭での学習を充実し、学力調査による学力分析データを活用しながら、低学年期から強みを把握して授業改善に活かし、基礎学力の定着と家庭での学習習慣を確立する。

2 対 象

宇治市立全小学校第2、3学年

3 内 容

- (1) 教科に関する調査 国語、算数の2教科（出題範囲は当該学年の10月までの学習内容）
- (2) 意識調査

4 実施時期

令和7年12月1日（月）～5日（金）までの各校の設定日

5 調査時間

1教科45分（学力調査40分+意識調査5分）

6 実施児童数

	小学校 第2学年	小学校 第3学年
国語 受検者数	1,204 人	1,220 人
算数 受検者数	1,207 人	1,221 人
実施校数	22 校	22 校

7 調査結果

(1) 小学校3年生

① 国語 教科調査

ア 宇治市全体の正答率

		R5 3年	R6 3年	R7 3年
教科総合		60.2	64.0	62.0
観点1	知識・技能	71.1	78.0	67.7
観点2	思判表	53.5	55.8	58.3
領域1	言情文	71.1	78.0	67.7
領域2	話す・聞く	75.3	77.5	85.8
領域3	書く	31.0	38.5	37.6
領域4	読む	43.3	48.3	53.2

※「思判表」・・・「思考・判断・表現」

※「言情文」・・・「言葉・情報・言語文化」

イ 他自治体平均との比較

		R6 3年とR7 3年 の変化	同集団の比較 R6 2年時とR7 3年時
教科総合		↓	↗
観点1	知識・技能	↓	↗
観点2	思判表	↗	↗
領域1	言情文	↓	↗
領域2	話す・聞く	↗	↗
領域3	書く	↓	↓
領域4	読む	↗	↗

(↑) 2 P以上の増 (↗) 2 P未満の増

(↓) 2 P以上の減 (↘) 2 P未満の減

② 算数 教科調査

ア 宇治市全体の正答率

		R5 3年	R6 3年	R7 3年
教科総合		70.1	69.3	68.2
観点1	知識・技能	75.6	73.1	72.7
観点2	思判表	56.8	60.1	60.1
領域1	数と計算	69.8	78.2	77.2
領域2	図形	72.2	64.2	65.8
領域3	測定	68.9	54.3	53.2

※「思判表」・・・「思考・判断・表現」

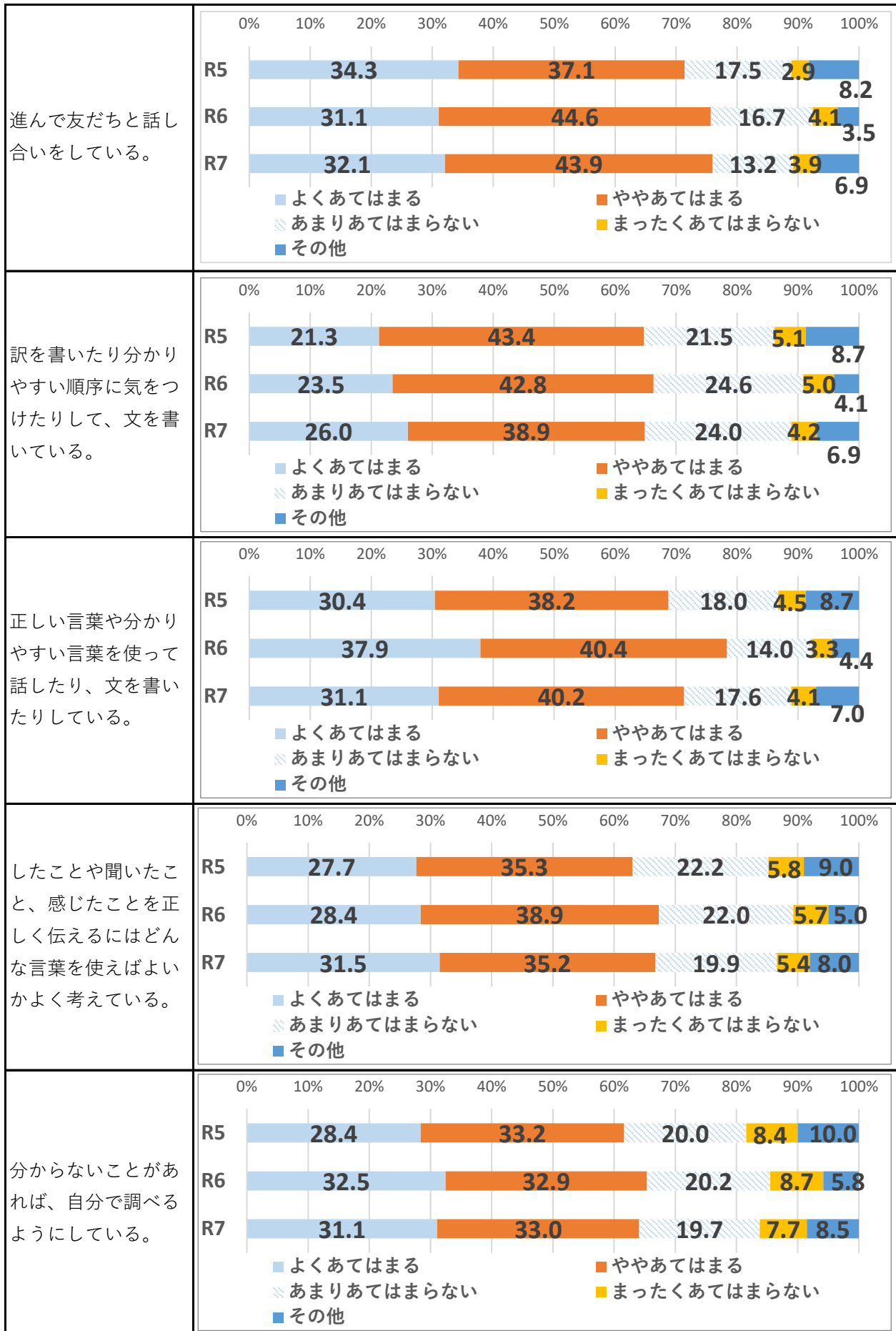
イ 他自治体平均との比較

		R6 3年とR7 3年 の変化	同集団の比較 R6 2年時とR7 3年時
教科総合		↗	↗
観点1	知識・技能	↗	↗
観点2	思判表	↓	↑
領域1	数と計算	↗	↗
領域2	図形	↗	↗
領域3	測定	↗	↑

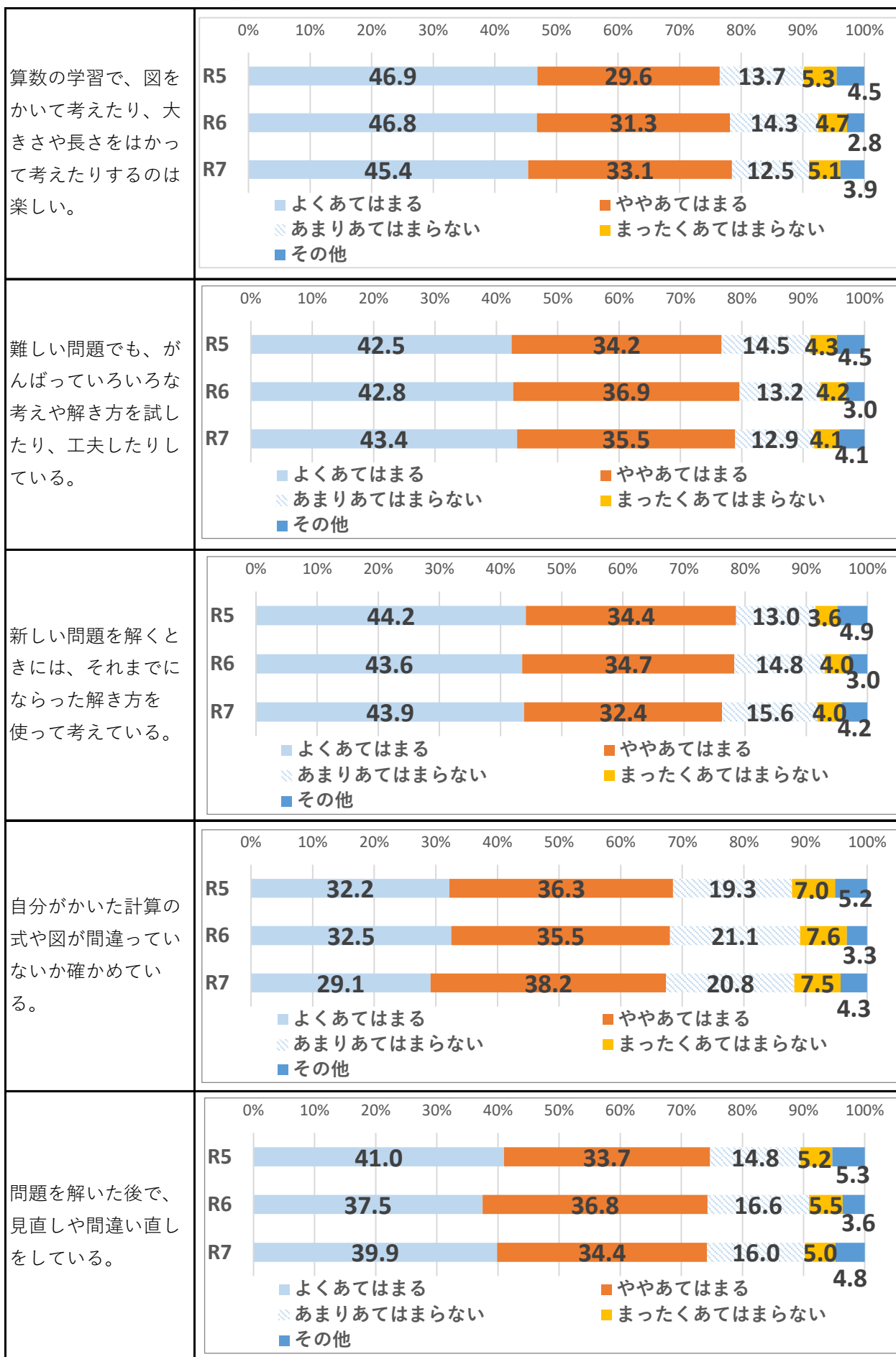
(↑) 2 P以上の増 (↗) 2 P未満の増

(↓) 2 P以上の減 (↘) 2 P未満の減

③国語 意識調査（小3）



④算数 意識調査（小3）



(2) 小学校2年生

① 国語 教科調査

ア 宇治市全体の正答率

		R5 2年	R6 2年	R7 2年
教科総合		78.5	82.8	84.3
観点1	知識・技能	90.6	85.4	89.1
観点2	思判表	67.4	80.4	79.9
領域1	言情文	90.6	85.4	89.1
領域2	話す・聞く	89.5	90.0	84.7
領域3	書く	49.6	74.7	66.7
領域4	読む	59.1	76.8	78.1

※「思判表」・・・「思考・判断・表現」

※「言情文」・・・「言葉・情報・言語文化」

イ 他自治体平均との比較

		R6 2年とR7 2年 の変化
教科総合		↗
観点1	知識・技能	↗
観点2	思判表	→
領域1	言情文	↗
領域2	話す・聞く	↘
領域3	書く	↘
領域4	読む	↗

(↗ 2 P以上の増)

(↗ 2 P未満の増)

(↘ 2 P以上の減)

(↘ 2 P未満の減)

(→ 横ばい)

② 算数 教科調査

ア 宇治市全体の正答率

		R5 2年	R6 2年	R7 2年
教科総合		78.0	74.4	69.9
観点1	知識・技能	83.9	79.0	75.6
観点2	思判表	55.7	56.8	48.3
領域1	数と計算	73.5	79.6	65.6
領域2	図形	85.4	76.3	74.4
領域3	測定	77.9	61.2	67.4
領域4	データ活用	90.4	84.2	88.2

※「思判表」・・・「思考・判断・表現」

イ 他自治体平均との比較

		R6 2年とR7 2年 の変化
教科総合		↘
観点1	知識・技能	↘
観点2	思判表	↗
領域1	数と計算	↓
領域2	図形	↓
領域3	測定	↗
領域4	データ活用	↗

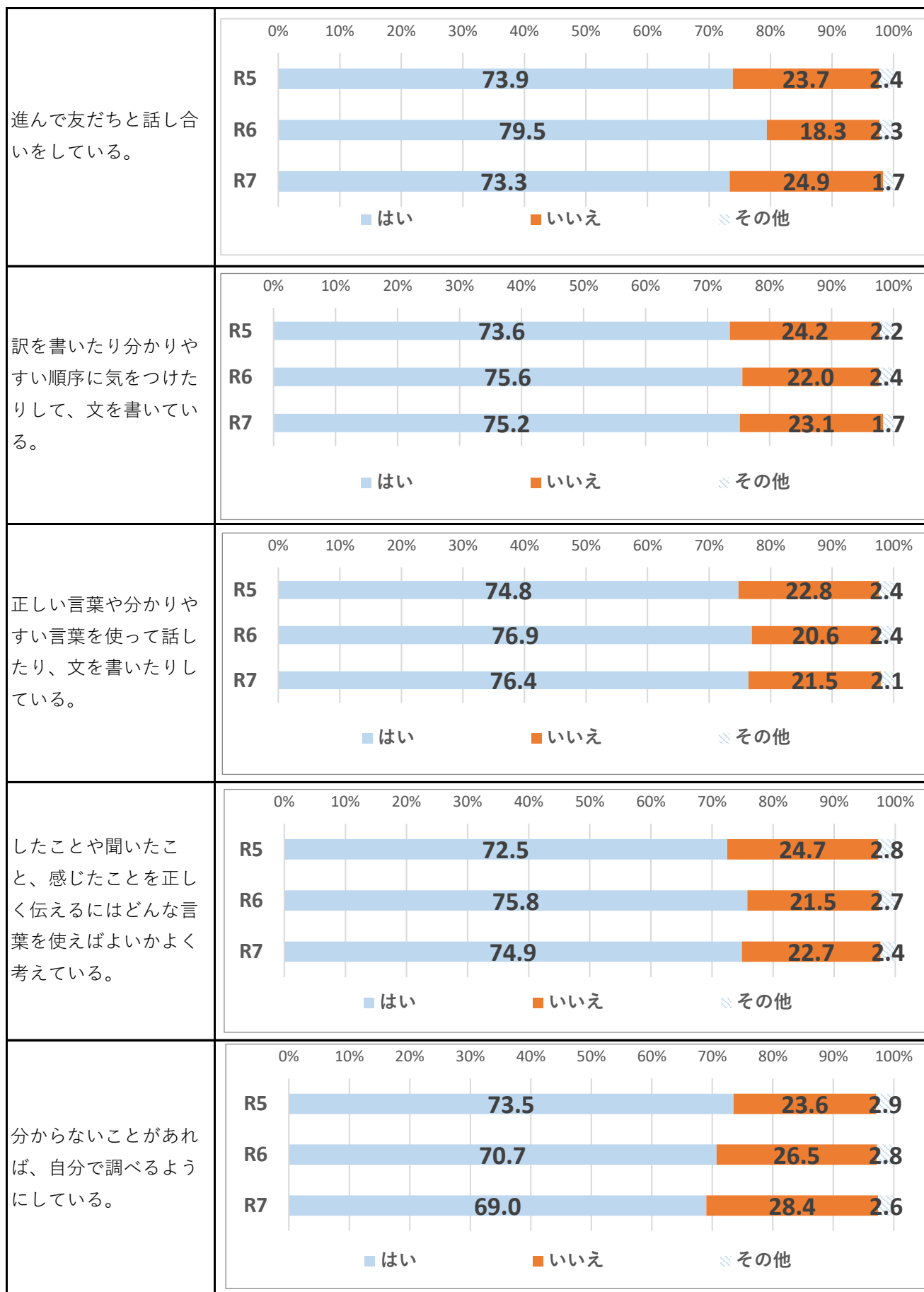
(↗ 2 P以上の増)

(↗ 2 P未満の増)

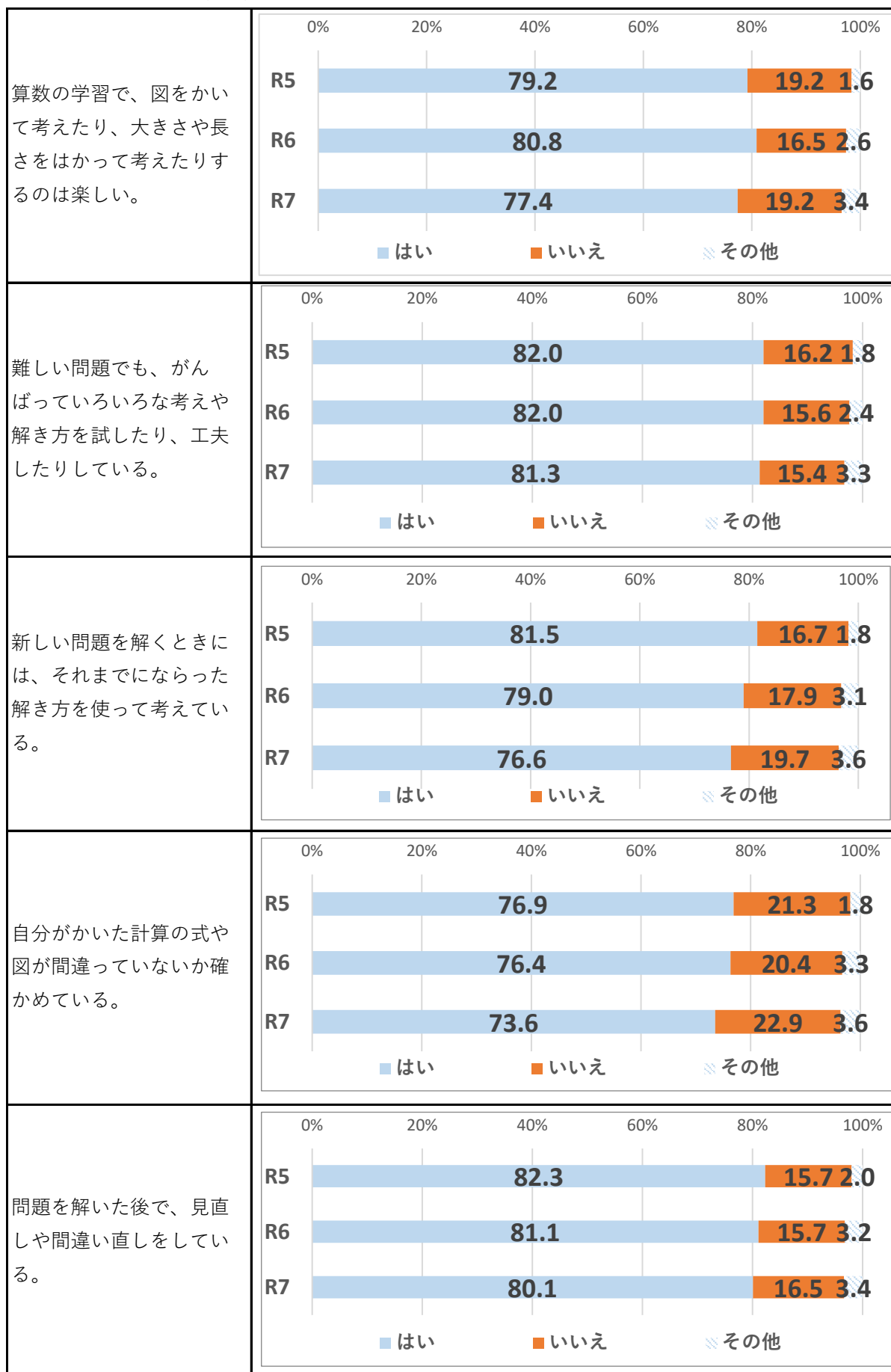
(↘ 2 P以上の減)

(↘ 2 P未満の減)

③国語 意識調査（小2）



④算数 意識調査（小2）



8 結果概要

(1) 小学校3年生

① 国語 教科調査

正答率同集団の伸び(R6 2 年時と R7 3年時との比較)について、他自治体平均との比較では、「話す・聞く」「読む」の領域で伸びが見られた。一方、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点、「言葉・情報・言語文化」「書くこと」の領域において減少が見られた。特に、「書くこと」の領域においては、大きな課題が見られた。

② 算数 教科調査

正答率同集団の伸び(R6 2 年時と R7 3年時との比較)について、他自治体平均との比較では、「図形」の領域において減少がみられたものの、その他の観点及び領域で伸びが見られ、特に、「思考・判断・表現」の観点、「測定」の領域において大きな伸びが見られた。

③ 国語 意識調査

「分からないことがあれば、自分で調べるようにしている。」の項目について、肯定的回答割合が 64.1% と他の項目に比べても低く、令和5年度、令和6年度においても同様の傾向がみられる。

④ 算数 意識調査

「自分がかいた計算の式や図が間違っていないか確かめている。」の項目について、肯定的回答割合が 67.3%と他の項目に比べても低く、令和5年度、令和6年度においても同様の傾向がみられる。

(2) 小学校2年生

① 国語 教科調査

昨年度の 2 年生との正答率の比較において、「知識・技能」の観点、「言葉・情報・言語文化」「読む」の領域で増加した。一方、「話す・聞く」「書く」の領域で減少した。

② 算数 教科調査

昨年度の 2 年生との正答率の比較において、「思考・判断・表現」の観点、「測定」「データ活用」の領域で増加した。一方、「知識・技能」の観点、「数と計算」「図形」の領域で減少した。特に、「数と計算」「図形」の領域で大きく減少している。

③ 国語 意識調査

「分からないことがあれば、自分で調べるようにしている。」の項目について、肯定的回答割合が 69.0% と他の項目に比べても低く、令和5年度から段階的に減少している。

④ 算数 意識調査

「自分がかいた計算の式や図が間違っていないか確かめている。」の項目について、肯定的回答割合が 73.6%と他の項目に比べても低く、令和5年度、令和6年度においても同様の傾向がみられる。

9 取組の成果

- (1) 小3国語の正答率同集団の伸び(R6 2 年時と R7 3年時との比較)について、他自治体平均との比較において差が大きかった「読むこと」の領域に関わる内容について、その領域を意識した授業改善や「読み取る力」の向上に向けた取組の工夫により、改善が見られた。

【R7取組例】

- 教員が読み取る観点を提示し、児童がその観点を意識しながら読む活動を行った。
- 個別やグループでの活動を積極的に行い、何度も文章を読み、その文章から読み取れることを考える活動を行った。
- 日々の宿題に文法問題を取り入れ、反復練習をして定着を図った。
- 家庭学習での音読では、その日習った内容を深めるものを課題とした。
- 音読の仕方を工夫した。(ペア読み、班読み、段落読み等)

- (2) 小3算数の正答率同集団の伸び(R6 2 年時と R7 3年時との比較)について、他自治体平均との比較において改善が見られた「測定」の領域に関わる内容について、その領域を意識した授業改善や、タブレット端末を活用したドリル学習等の取組により、改善が見られた。

【R7取組例】

- 昼休みや放課後、長期休業中等の時間を活用し、個々の児童の状況に応じた個別支援を行った。
- 具体物やICT活用し、理解を深める工夫を行った。
- ペア学習、グループ学習、個に応じた学習等を行い、自分に合った方法で学習し、分からないことを聞きやすく、教え合えるような雰囲気づくりを行った。

- (3) 低学年から、子ども一人ひとりのつまずきや苦手箇所を把握し、それに対応した個別の支援を行うとともに、調査結果を活用し、家庭と連携して家庭学習の取組を進めることができた。

【R7 取組例】

- 個別懇談会等を活用し、子ども一人ひとりの強みと弱みを保護者と共有し、その子に応じた学習方法をアドバイスした。
- 文章を読んで考えたことを書くなど、「読む力」の育成を目指した家庭学習を実施した。
- 児童の家庭学習ノートを掲示するなど、児童同士が家庭学習の内容や方法を交流する機会を持った。
- 普段の授業に直接つながる家庭学習の出し方を工夫した。

10 課題に対する対応

(1) 家庭との連携について

家庭との連携については、児童の学習習慣、読書習慣の確立等に重要な役割を担うことから、引き続き、下記の取組を推進する。

- ①児童の学習習慣の確立を目指し、学力調査結果及びその分析をもとに、子ども一人ひとりの強みと弱みを保護者と共有する等、学校と家庭が連携して家庭学習の取組を進めるとともに、子どもの興味や関心についても学校と家庭で共有し、探究心や主体性を育む取組を進める。
- ②読書習慣形成に向けて、家庭、学校、教育委員会、就学前施設、市長部局等の連携を深め、本に親しみ、進んで読書に取り組む態度を養うための取組を推進する。

(2) 学校の取組について

- ①本調査の分析において課題が大きかった領域等の改善に向けて、以下の具体的な取組を進める。
 - 国語科「書くこと」、算数科「図形」における指導方法の分析を行い、学習内容の定着を図るための授業改善を図る。
 - 小3・小2国語の意識調査において、「分からないことがあれば、自分で調べるようにしている。」の項目に肯定的な回答をしている児童生徒が少ない傾向があるため、知りたいと思う好奇心や自分の力で解決しようとする主体性を醸成する取組を展開する。
 - 小3・小2算数の意識調査において、「自分がかいた計算の式や図が間違っていないか確かめている。」の項目に肯定的な回答をしている児童生徒が少ない傾向があるため、間違いがないか等、学びを振り返る習慣づくりや粘り強く考える力を醸成する取組を展開する。
- ②学力調査結果を活用して子ども一人ひとりに応じたカリキュラムを作成し、タブレット端末等を活用してドリル学習を行う。さらに、確認テストにより達成度を診断し、つまずきの克服に取り組む。